唐工ニュース

佐賀県立唐津工業高等学校
〒847-0832　佐賀県唐津市石志字中ノ尾3072番1
TEL 0955-78-1155　　FAX 0955-70-3021
https://www.education.saga.jp/hp/karatsukougyoukoukou/

令和７年
９月１日発行
第３４６号

「自分自身に責任を持つこと」

保健厚生部主任　馬場博子

令和7年7月、イチロー選手がアメリカ野球殿堂入りを果たしました。その式典でのスピーチを、皆さんは聞きましたか？

●私は自分の道具を毎日自分で手入れしました。グラブのひもが緩んでエラーをしないように、あるいは、洗っていなかったことでスパイクが滑って走塁ミスにならないように、用具の手入れを欠かしませんでした。

●小さなことを積み重ねれば可能性は無限大です。私の身長は1メートル80センチ、体重は77キロです。アメリカに来た時、多くの人が「メジャーリーグの大きな選手たちと戦うには痩せすぎだ」と言いました。最初にフィールドに駆け出たときは、そうした声に押されていました。でも、自分の準備への信念を貫けば、周りからの疑念や、自分の不安さえも乗り越えられると信じていました。

上のイチロー選手のどの言葉からも、彼の前向きな姿勢や努力が感じられました。
しかしその中でも、次のイチロー選手の言葉に、私は納得させられました。

> 「チームのためにできる基本的なことは何か？」と聞かれたら、
> 私は「自分自身に責任を持つこと」と答えます。

さすがイチロー選手！この考え方、この姿勢が彼を生んだのだ！と思いました。

私たちは学校や社会という「チーム」の中で生活しています。その基本は、イチロー選手が言うように「自分自身に責任を持つこと」ではないでしょうか。
チームの一員として協力し合うためには、まず自分の行動や言葉に責任を持つことが求められます。自分の言動が周囲にどのような影響を与えるかを意識することで、信頼関係が築かれ、より良い人間関係が生まれると思います。
自分自身に責任を持つことを意識して大きな成果を上げたイチロー選手の経験を参考にして、私たちも唐津工業高校というチームの一員として責任ある行動や発言をしていきたいですね。

9月　10月

行事は変更することがあります。ご了承下さい。

日	曜	時	学　校　行　事	日	曜	学　校　行　事
1	月	特	始業式、大掃除、頭髪服装検査 ④(1,2年:学年集会、3年HR)　第３回推薦会議(大学短大)	1	水	
2	火	平	唐工祭役員研修会	2	木	英小テスト④　SC(PM)
3	水	平	HT ⑥	3	金	HR(1,2年:生徒会役員立候補者選出 3年:クラス扱い)
4	木	平	英小テスト③	4	土	唐工祭準備期間(～15)　(振替11/4)
5	金	平	HR(唐工祭選手・出し物決め)	5	日	
6	土			6	月	
7	日			7	火	
8	月	平		8	水	文化祭準備(ﾊﾞｻﾞｰ等)
9	火	平		9	木	文化祭、片付けほか
10	水	平	生徒保健委員会	10	金	リスニング英語検定
11	木	平	数小テスト③　SC(AM)	11	土	
12	金	平	HR(1,2年:クラス役員決め 3年:進路激励会)　基礎製図検定	12	日	
13	土			13	月	スポーツの日
14	日			14	火	
15	月		敬老の日	15	水	体育大会準備　生徒保健委員会
16	火	平	就職試験開始	16	木	体育大会
17	水	平	月曜授業　体育大会役員研修会 PTAクラス役員会(19:30)　HT ⑦	17	金	体育大会(予備日)　片付け,大掃除, 科集会,HR(体育大会ｱﾝｹｰﾄ)
18	木	B	国小テスト③　SC(PM)	18	土	
19	金	平	HR(1年:ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ報告会,2年:唐工祭選手・出し物決め 3年:ｸﾗｽ役員決め)	19	日	
20	土			20	月	学校生活ｱﾝｹｰﾄ(面談週間～24日)
21	日			21	火	佐賀週間(～31日、朝読書) 出前授業(ケ1,AM)
22	月	平		22	水	月曜授業　HT ⑧
23	火		秋分の日	23	木	数小テスト④　SC(PM)
24	水	B		24	金	HR(駅伝部壮行会) エイズ予防講演会(1年③)
25	木	平	未来のｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ説明会(14:30)　SC(PM)	25	土	ボランティア活動(NPO,厳木高校合同企画)
26	金	D	中間考査	26	日	
27	土		マイコンカーラリー佐賀大会(佐工) 東西松浦バレーボール大会(本校/終日)	27	月	
28	日			28	火	⑦防災避難訓練(⑥終了後)
29	月	D		29	水	国小テスト④
30	火	D		30	木	
				31	金	HR(学校活性化アンケート:特活)

HT:ﾋｭｰﾏﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ　SC:ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ来校　キ:機械科　デ:電気科　ド:土木科　ケ:建築科　@:建築科ﾏｲｽﾀｰ派遣事業

◎鬼塚小学校「ものづくり体験教室」

７月４日（金）、鬼塚小学校において「ものづくり体験教室」が開催されました。今回は小学４年生７１名を対象に、機械科・電気科・土木科・建築科の生徒たちが、それぞれの専門分野の特徴を活かした体験プログラムを企画・実施しました。当日は、子どもたちにとって普段触れる機会の少ない本格的な道具や機械を使った製作活動が行われ、初めての作業に戸惑いながらも、目を輝かせて一生懸命に取り組む姿がとても印象的でした。機械科では卓上旋盤を使って鉛筆型のキーホルダーを作成し、電気科ではゲームプログラミングを体験しました。さらに、土木科ではドローンの操縦に挑戦し、建築科では木材を使ったオリジナルの鉛筆立てを製作しました。どの体験も子どもたちにとって貴重な学びの場となり、ものづくりの楽しさや面白さを肌で感じてもらえたのではないかと思います。参加した児童からは「もっと作ってみたい」「将来は自分も機械を扱ってみたい」などの声も聞かれ、今回の取り組みが将来の夢を考えるきっかけにもなったようです。これからも地域の子どもたちにものづくりの魅力を伝えられるよう、さまざまな取り組みを続けていきたいと思います。

◎１学期クラスマッチ

７月７日(月)に１学期クラスマッチがソフトボールとバレーボールの２種目で実施されました。今年は真夏の晴天に恵まれ、生徒達は汗まみれになりながら、優勝を目指して一生懸命にプレーしていました。結果は以下の通りです。生徒のみなさん、お疲れ様でした。

◎韓国・慶北科学技術高校との交流会

７月８日(火)、韓国の慶北科学技術高等学校より、３年生の生徒１８名と引率の先生２名、総勢２０名の皆様が本校を訪問されました。今回の訪問は、慶北科学技術高等学校において日本の工業高校での職業教育の現場を視察し、実習授業への理解を深めるとともに、生徒の職業意識の向上および教育環境のさらなる充実を図ることを目的として、７月７日(月)から９日(水)までの３日間の日程で実施されたものです。当日は、本校到着後に両校の代表者による情報交換会が行われ、学校紹介や教育内容について活発な意見交換が交わされました。その後、慶北科学技術高等学校の皆様は、機械科および電気科の３年生の実習授業を見学され、生徒たちの真剣な実習の様子を熱心に見つめ、耳を傾けておられました。見学の合間には、本校生徒とも積極的にコミュニケーションを取り、笑顔で言葉を交わす姿が多く見られ、両校の生徒にとって大変有意義な国際交流の機会となりました。本校の生徒たちにとっても、普段の学校生活ではなかなか得られない貴重な異文化交流の体験となり、大きな刺激と学びを得ることができました。慶北科学技術高等学校の皆様は、本校での視察を終えられた後、福岡県にあるトヨタ自動車九州株式会社を訪問され、日本の最先端のものづくりの現場を見学しに向かわれました。今回の訪問を通じて、両校のさらなる交流と発展、そして生徒の職業観の育成や国際的な視野の拡大につながりました。

◎防犯・交通講話

７月１１日(金)、佐賀県警唐津警察署から、交通課指導係の阿部聖也様と、生活安全課生活安全係の名古屋章様をお招きし、交通安全と防犯についてお話をしていただきました。阿部様からは、最近、自転車のルール違反による事故が多発しており深刻な問題になっていることについてお話がありました。特に、スマホを操作しながらの運転、音楽を聴きながらの運転、傘を差しながらの運転などは禁止されています。自転車であっても事故を起こし自分に過失があれば賠償責任が発生するため、自転車保険に加入することが勧められました。また、２０２６年４月からは自転車も取り締まりの対象となり、違反すると反則切符が交付され、罰金が科されるようになります。阿部様は、自転車に乗る際には以下の「自転車安全利用五則」を守るよう呼びかけられました。

①自転車は車道が原則、歩道は例外。
②自転車は左側を通行する。
③歩道では歩行者優先で、車道寄りを徐行する。
④飲酒運転・二人乗りは禁止、交差点では信号を守る。
⑤子どもはヘルメットを着用する。

名古屋様からは、スマートフォンの過度な使用によって情緒が不安定になり、学業にも悪影響が出ることがあると注意喚起がありました。また、ＳＮＳでの安易な個人情報や写真の発信は犯罪に巻き込まれる危険があるため、むやみに送信しない。メッセージを発信する際には、送る前に内容をしっかり確認し、誤解されない表現を心がけるようお話がありました。

◎性に関する講演会

７月１６日（水)、本校では「性」や「生」について改めて考える機会を設け、人間性豊かな生徒を育成することを目的として、たなべクリニック産婦人科の助産師の石崎奈美恵様を講師にお招きし、「みんな同じ？？」という演題でご講話をいただきました。

当日は、石崎様がこれまで産婦人科の助産師として多くの妊産婦さんやご家族と関わる中で、現場でしか知り得ない貴重な体験や、命の尊さを感じた出来事などを、時にユーモアを交えながら具体的にお話しくださいました。男女の営みや性のあり方についても、医療の専門的な視点だけでなく、一人の女性、そして母親という立場からの思いや考えを交えながら、私たちにも分かりやすく語ってくださいました。特に印象的だったのは、性とは単なる行為ではなく、「生きることそのものであり、命を育み繋いでいくことである」というお言葉です。また、「自分の心がつらくなったとき、どんなことでも気軽に相談できる“心の救急箱”のような人、安心してＳＯＳを出せる人を、ぜひ、一人でも二人でも見つけておいてください」という呼びかけには、多くの生徒が深くうなずいていました。今回の講話を通して、生徒たち一人ひとりが自分の「性」と「生」に向き合い、命の重みや他者を思いやる心の大切さを改めて考える大変貴重な時間となりました。